

# 自転車道色ガイド

景観からみた  
自転車走行環境整備における路面表示色の決定方法

## 0 はじめに

### 優れた景観には、色彩の調和がある

#### 色彩の調和



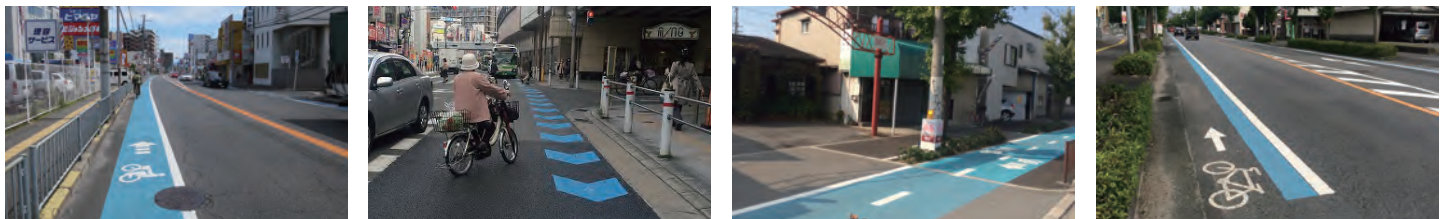
高度経済成長期以降、その調和を軽視する建築物が建ち並び、周辺景観に調和しない道路の路面色彩

#### 増加する派手な路面表示



### 自転車利用環境整備における景観デザインの課題

- ・自転車政策は、2016年12月、国の「自転車活用推進法<sup>01</sup>」の成立を受けて（2017年5月施行）、全国的に急速に進みつつある
- ・全国で自転車利用環境整備が進むにつれて、景観の分野では自転車利用環境整備のデザインに課題があることが明らかになってきた
- ・国の自転車路面色<sup>02</sup>の推薦色が「青色」であったため、多くの自治体で彩度の高い青色の自転車路面色が広がっていった



#### 安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン

2012年策定(2016年一部改定)  
1.1.4 路面標識・道路表示、看板・路面表示等 2) 帯状路面表示及び矢羽根型路面表示

2012年12月

…周辺の景観に対し大きな影響を与えないよう、**地域毎の景観条例等を考慮した上で、景観や色彩の専門家の意見を聴くなど**、着色する路面の範囲、路面表示の大きさ、色彩の彩度及び明度等に留意するものとする。

2016年7月

…帯状路面表示及び矢羽根型路面表示の色彩は**青系色を基本**とするが、景観に配慮して設置するものとする。

各地の路面表示実施要領でも、青色系を用いるように記されたものが多い

#### 課題

- 景観からの視点が具体的に示されていない
- 自治体の担当者は色彩への知識や景観の専門性を持ち合せてない場合が多い
- さらに景観色彩の専門分野では、自治体にそのノウハウは蓄積されていない場合がほとんどである

今後も景観とは関係なく、路面表示色の決定がされていく可能性がある

今後、全国的に自転車利用環境の整備が進む中、地域の景観を壊すことなく整備を進めるためには、周辺の景観を把握した上での環境整備が求められる



01: 自転車活用の推進に関する施策の基本となる事項を定め、自転車の活用の総合的かつ計画的な推進を目的に制定。市町村は、自転車活用推進計画を定めるよう努めなければならない。  
02: 自転車の走行路面色を総称して、ここでは「自転車路面色」と呼ぶ。  
自転車利用環境では、様々なタイプの路面表示(専用レーンとしてのベタ塗り着色や、ラインでの表現など、白色の自転車ピクトなど)がある。

# 自転車道色ガイド

景観からみた  
自転車走行環境整備における路面表示色の決定方法

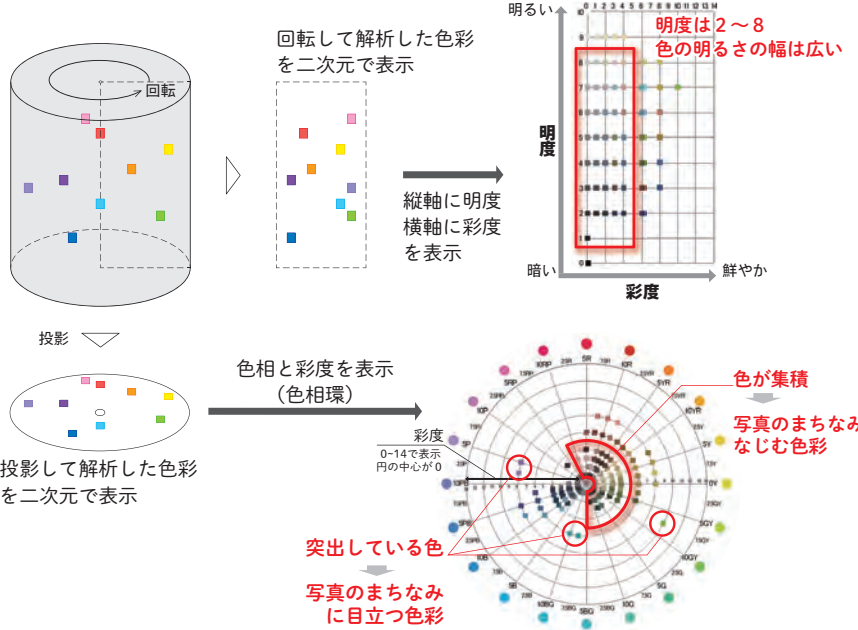
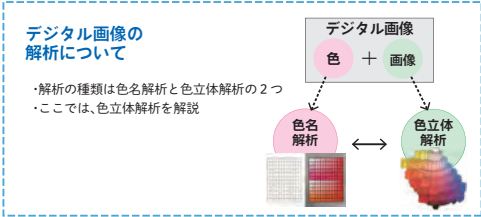
## 1 景観にふさわしい路面表示色の決定に向けて

### 1. 写真を活用した景観色彩解析

今回の色彩解析では、デジタル画像色解析システム Feelimage Analyzer（ビバコンピュータ株式会社、以下VIVAソフトという）を用いて解析を実施

#### ●色彩解析の流れ

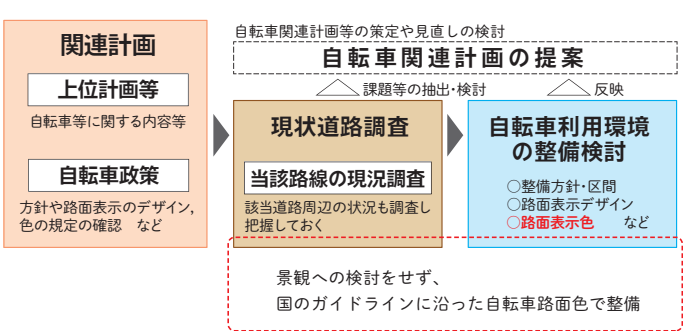
- ①写真に写るまちなみの色彩を解析
- ②色彩解析の結果を立体（3次元）表示
- ③マンセルの色相環等で2次元表示



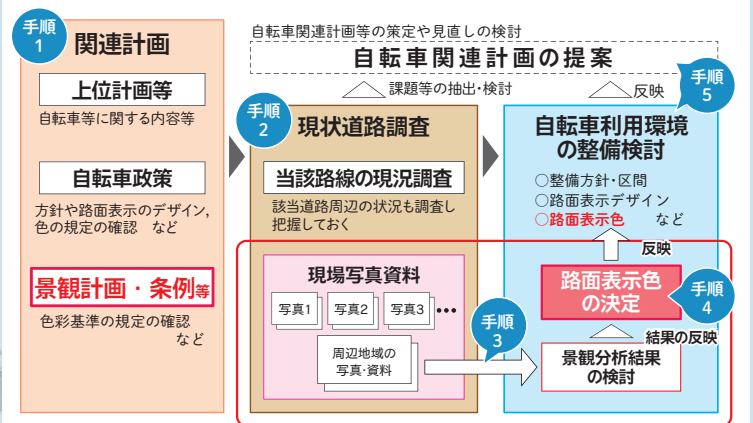
### 2. 本ガイドでの自転車路面色決定の流れ

- 手順1 関連計画・政策の把握** 自治体の依頼に基づき、自転車に関連する現状の政策、景観計画や条例など景観に関する施策の把握
- 手順2 現状道路調査** 同自治体で路面表示の整備予定道路の現地調査の実施  
同自治体での自転車環境整備施工事例の有無の確認、該当路線の道路の現場写真資料の作成
- 手順3 景観色彩分析** 現場写真資料の該当路線写真（3~4枚）を活用し、景観色彩解析（VIVAソフト）の実施  
※色彩分析は現地調査を基本とするが、場合によっては現場の写真資料のみでの分析も可能  
※自転車利用環境整備では、路線同士のつながりも大切である。そのため、基礎自治体を超えて、該当路線の状況及び計画を把握する場合もある
- 手順4 路面表示色の提案** 解析結果を基に、最終の自転車路面色（マンセル値）を提案  
（地域周辺写真や施工事例写真なども参考に、景観計画における色彩基準を総合的に分析）
- 手順5 自転車利用環境整備の検討** 自転車路面色の提案後、必要に応じて、自転車関連計画についての提案も実施  
（自転車利用環境整備のトータルアドバイスなど）

#### ●一般的な自転車路面色の提案の流れ



#### ●景観を配慮した自転車路面色の提案の流れ



# 自転車道色ガイド

景観からみた  
自転車走行環境整備における路面表示色の決定方法

## 2 景観に配慮した自転車利用環境デザイン

### 1. 堺市における自転車路面色の検討

マンセル値 色相 5B  
明度 6  
彩度 8

堺市ではこれまで、自転車路面色は、青系の鮮やかな色彩(左記)で整備を進めてきた。  
自転車路面色については、景観の会議の中でも課題であったが、百舌鳥古墳群周辺の景観地区などの景観に配慮すべき区域で見直しが始まった。

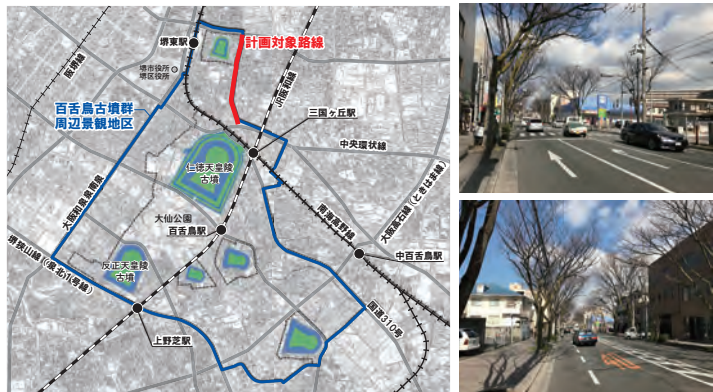


#### ●計画対象路線及び周辺地区の概要

自転車利用環境整備を行う対象路線は、世界文化遺産の百舌鳥古墳群<sup>01</sup>の近くにある幹線道路で、堺市景観計画で「景観地区」に指定されている。景観条例で、今回の計画対象路線のある景観地区の色彩基準は下表である。

百舌鳥古墳群周辺景観地区の色彩基準

外壁 (大規模建築物)	明度	彩度	外壁【門・塀】 (大規模建築物以外)	明度	彩度
橙色(YR)系	6以上	4以下	橙色(YR)系		6以下
黄色(Y),赤(R)系		3以下	黄色(Y),赤(R)系		4以下
その他の色相		2以下	その他の色相		2以下
無彩色					



#### ●計画対象路線の自転車路面色の提案

マンセル値 色相 5B  
明度 7-8  
彩度 2

- 該当路線には、色彩範囲が異なる地点が存在する。
- 路面表示色は、路線のどの場所においても周辺との調和を欠かさないためには、より色彩範囲の広がりが少ない場で、その色彩分布範囲に含まれることが求められる。

- 色相：市全体での整備の連続性から、色を使う場合は5Bを引き継ぐ
- 明度：現在の6から更に明るく視認性(特に夜間)を高めるため、7以上とする
- 彩度：現在の8は鮮やかさが高いため、景観地区としての基準2以下とする



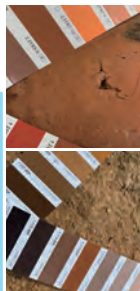
### 2. 石垣市における自転車路面色の検討

#### ●路面色彩提案色(矢羽根)

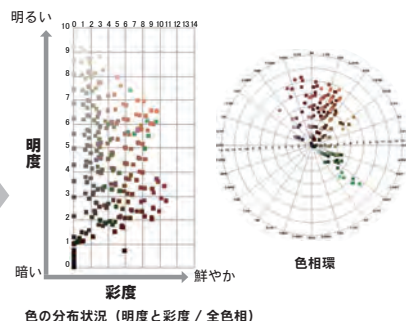


矢羽根としての活用に下記の色彩を提案  
2.5YR6/6

- 色相：地域特性の中心的色相
- 明度：提案道路のベースとなる路面の明度との差を重視
- 彩度：地域に馴染みながらもある程度の視認性を高めるため、地域の個性として出現する瓦の最大彩度6を提案



画像分析写真事例

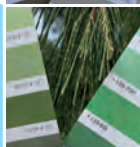


#### ●路面色彩提案色(自転車レーンなど全面着色)



自転車レーン等の全面着色に下記の色彩を提案  
2.5Y8/2

- 色相：石垣島の白い砂海岸の色相を活用
- 明度：白い砂海岸の明度を活用
- 彩度：周辺の自然景観の基調となる緑を超えない彩度で提案



石垣島北西部にある川平高屋線



石垣空港線

01:堺区、中区、西区、北区にまたがり、東西4km、南北4kmの範囲に広がる古墳群で、2019年7月に、「百舌鳥・古市古墳群」として世界文化遺産に登録された。